

平成 31 年度 児童養護施設 武田塾 事業計画

基本方針

創設者 武田慎治郎氏の基本理念である「共に在る」・「家庭的雰囲気醸成」

「こどもたちの生きる喜び、希望を引出す」の推進を基本とします。

- ① 子どもの成長にじっくりと関わり、時には対峙して、自分を認め、相手を認め、許しあい助け合いを育てていきます。
- ② 子どもたちひとりひとりの成長過程を確認し、権利の主体として個別性を認め、自己決定できる力を育みます。「生活」・「発達」・「自立」を支援していく認識の下、質の高い安全で安心できる生活環境を整え、社会の中で生きていくための生活力を育てます。
- ③ 心理的、医療的ケアの充実に努め、温かく潤いに満ちた生活が送れるよう取り組みます。
- ④ 高校卒業後の自立に向けた支援の充実に努め、先の見通せる支援を提供していきます。

児童現況

- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| ① 本体施設 | 定員 37 名 | 現員 35 名 | |
| ② 小規模ホーム | 定員 18 名 | 現員 18 名 | 合計 53 名 |

31 年 3 月 1 日現在

1. 経営理念

① 家庭的養護と個別化

できるだけ家庭的な環境で養育します。子どもひとりひとりの育みを丁寧にきめ細かく支援することを目標とします。

② 発達の保障と自立支援

愛着関係の形成や基本的信頼関係の形成、子ども期の主体的な活動の支援を通して、健全な心身の発達を促し、社会生活に必要な生きる力を養う支援を行います。

③ 回復をめざした支援

心の傷や深刻な生きづらさを抱えている子どもたちに、癒しや回復をめざした専門的ケアや心理的・医療的ケアを行います。

④ ライフサイクルを見通した継続的な支援と連携アプローチ

子どもたちが将来子どもを育てる親になっていく子育てのサイクルを考慮に入れた支援を行います。そのためにも、子ども家庭センターや市町村と連携するとともに、地域の子育て支援に努めます。

⑤ 家族連携

「安心して自分をゆだねる保護者」の不在である子どもたちにとって、親と共に成長できる喜びを

体験し、持続できるよう、共に歩む支援を行います。

2. 経営方針

(1) サービスの充実と高度な専門的ケアの提供について

①小規模化・ユニット化の推進

「あたり前の生活」への支援をこれまで以上に強化する。

3 か所の小規模ホームは、安心安全な生活を確保する中で基本的な生活習慣の確立と豊かな生活リズムを整え、子どもたちが先の見通しを持って生活を送ることができるよう取組を強化していく。

地域性を生かし、一時保護及びショートステイの受け入れに向けての環境整備や高齢者等の地域住民との交流を積極的に図っていく。

武田塾の3つのユニットについては、機能を明確にしていく必要があり、幼児ユニットにおいてはこれまで以上に居住性を高め、男子高校生ユニットのより効果的・有効的な活用に取り組み、自立へ向けてのより具体的な支援の展開を図っていく。あわせて、高校生ユニットにおいて自主調理体制への移行を行う。

女子ユニットにおいては、自主調理の体制をより強化しあわせて個別支援の充実化を図っていく。

さらに幼児ユニットにおいても自主調理体制への移行を目指し、取組を推進していく。

②個別支援とアタッチメント関係を重視した支援、先の見通しを持てる支援の強化。

自立支援計画に基づいた個別支援を目指す。

社会的な経験をより多く積み重ねることで獲得する知識や力の醸成に努める。また、個人としての地域への参画を図っていくなど、子ども達の自主性の向上に努める。

専任の担当職員を配置することにより、子どもと職員との関係性の強化に努める。さらにはフロアミーティングの定例化、強化を図る。他職種の視点として、心理士の参加をチーム対応、SVにより職員の安心の確保に努める。

不適切な家庭養育により、学校生活を続けてこれなかった子供の中には、学年相応の学力より極めて低いところで行き詰っていて、そのことにより学校への行き辛さを持つことにより不登校に陥ってしまっている。学校との連携の中での取り組みのほか、個別の学習支援の体制整備を目指していくとともに、個人の持つ学力に合わせた学習支援を行うために、NPO等が行っている学習塾へ通えるシステムを整備する。

30年度に実施した「ひとり暮らし体験」プロジェクトのさらなる強化に取り組むとともに、自立支援コーディネイト担当職員を配置し、高校生が少しでも先を見通すことができるよう取り組んでいく。

法人事業所である「さんねっと」との連携強化に努め、地域生活に移行するために必要な社会資源の活用を積極的に取り入れていくことができるように努めていく。

③主体的クラブ活動への取組。

子どもたちの生活の幅を広げ、退所後も継続できるように、様々な社会資源の活用を図っていくことが必要とされる。スポーツクラブ、音楽等のサークル等への参画を進め、地域のひととの地域交流を進めていく。

また、子ども達の希望に寄添い地域参加を拡大していく。地域のスポーツ、文化クラブ等への参加の意欲を示す子どもたちには積極的に参加を推し進めていく。武拳部 フットサル部 クラフト部 地域クラブ JOY 誠輪館等、武田塾内部クラブの充実化を図っていく。さらに、地域の子どもたちが武田塾の武拳部やフットサル部の活動に参加できるようにしていくことでの地域貢献への取り組みを目指していく。

(2) 人材確保と育成の体制整備

①人材確保

就職フェアへの積極的な参画を図る。

実習校との関係の強化を図るとともに、関心と興味を持ってもらえるプログラムを整えていくことにより就職に結びつけていくことができるようにする。

また、施設職場体験プログラムの導入をこれまで以上にすすめ、就職に結び付けていく。

②人材育成

最善のサービスの提供を目指す中で人材の確保と育成に努めていく。

スペシャリストとしての職員の育成（初級職員及び中堅職員）と組織全体の人材育成（リーダー職員）の具体像を職員に示していく。子どもの成長にとって安心感が不可欠であるように、職員が課題を分かち合い、支援に見通しを持てるように、職員の育成を図っていく。

OJT（日常における職員の育成）OFF-OJT（指示された外部等の研修による職員の育成） SDS（自発的研修への参加による職員の育成）を、職員が理解し積極的に参画できるようなシステムを具体的に示し、重点化していく。

(3) 地域福祉と社会貢献の推進

子どもは、人との触れ合いによって成長する。高齢化の進む地域社会で共に考え、役割を明確にして、社会人として何が求められているのか、子ども達に明確に示すとともに、地域に暮らす個人としての意識の向上に努めていく。また 30 年度同様に、自治会活動や PTA 活動への積極的な参加を図り、専門性の提供に努めていく。

地域祭り 納涼祭 高田苑祭り 青山台自治会及び柏原東高校との合同の清掃活動等、施設との積極的な交流を進めてく。

また、柏原市・八尾市でのショートステイ事業でのレスパイトによる定期利用の受け入れの強化を図るとともに、子育て相談、障がい相談、など施設の専門機能の地域開放等を進めていく。

さらには、柏原市の社明運動や小中校区の各種催しにも積極的に関わっていくとともに、施設が企画する研修会等を地域に開放することにより、地域の子育てに関与できるようにしていく。

(4) 経営基盤の安定化の推進

入所・一時保護・ショートステイの適正な受け入れを図っていく。

安心安全な生活を保障し、先を見通せる生活を送ることができる体制のよりいっそうの強化を進めることにより、安定的な運営基盤を整えていく。1 階及び 2 階の受け入れ態勢を再編成し、縦割りを含めた子どもたちが安心安全を実感できるようにしていく。

小規模ホーム運営、ユニット化、医療支援の看護師の常勤配置や心理支援の整備などの特色のある施設運営の状況をこれまで以上にアピールしていく。

ナビシステムのより効率的な活用を進め、職員間の情報の共有化を進めることにより、子どもたちがこれまで以上に安心安全を実感できるようにする。

3. 平成 31 年度の特別強化事業

①大人へのステップアッププログラムⅡ

「ひとり暮らし体験プログラム」の継続的な展開を図る。

先の見通せる自立に向けた支援の具体化

児童施設における「大人への支援」

高校在学中でのひとり暮らしをシミュレーションできる場を確保し、ひとり暮らしを体験できるプログラムを 30 年度以上に拡大しこれまで以上の継続的展開を図る。

そのために、自立支援コーディネイター（仮称）を配置し、自立に向けた様々な取り組みを企画実行できるようにしていく。さらに生活訓練・体験保障のためにハイツやマンションの 1 室を借り上げての個別支援の取り組みも図っていく。

②中小企業同友会によるインターンシップへの参画

小学高学年及び中学生を対象に行っている中小企業同友会の支援によるインターンシップの継続は、社会経験の乏しい子ども達が施設や学校以外の大人と関わることによって、ひとつずつ、少しずつ社会性を身につけられるよう、位置づけていく。

その他、弁護士・司法書士・税理士等の実際の社会生活場面での法律 経済等の専門家による「生きかた」講座の開催などによる社会資源 地域資源の活用を取り入れていく。

- ・現場見学→職場体験に結びつける
- ・高校選択時における目的の意識化を図る
- ・社会自立後の協力者とのつながりをつくっていく。
- ・「働くってどういうこと」を伝えるための様々の方法を考える。

③食生活支援の充実

武田塾本体では、女子ユニットにおける完全自主調理を実施し、30年12月からは2階男子高校生ユニットでの弁当の自主調理を実施し、さらに今年度当初より、このユニットにおいては完全自主調理へと移行させる。

今後子ども達が当たり前に参加できる食育支援の強化を推進していく。

調理実習等の取り組みができる環境の整備および職員配置の再編成を踏まえ、他のフロアでの取組を具体化させていく。

④「生活のしづらい」地域の子どもたちへの支援

現在は、柏原市・八尾市とショートステイ事業を実施している。30年度はレスパイトによる定期的利用の積極的な受け入れを行い、本年度においても地域の子育て支援の強化に努めていく。

⑤子どもの権利擁護

苦情解決第三者委員のより有効的な活用

苦情解決第三者委員の毎月の定期的な訪問により、子ども達が普通に大人に相談ができるという安心感を通して、自分の感情や想いを育んでいく条件を整えていく。

職員間の意思疎通と専門性の確立

武田塾の「生活のしおり」（29年度改定版）および「権利ノート」の活用により子ども達、職員がお互いの人権の尊重を推し進めることの重要性については年度を通じて取り組んでいる。子ども達が「あたりまえの生活」を保持できるよう施設内、施設外の様々な研修を利用して、この視点を確立していく。

トラウマとアタッチメント理論に基づくケアの二本柱に、アセスメントと自立支援計画に基づく支援を目指す。共通の言語、支援方針の共有により、チームに支えられ、協働することでより高い専門性の実現を図る。

「第三者評価」の継続的取組

前年度の評価結果に基づく改善を職員全体で継続的に取り組む。

今年度は、そのためのプロジェクトメンバーによる次回の「自己評価」の実施の基本とす

る。
職員としての振り返りの重要性について、職員間での共通の認識を図り、子どもたちの支援に役立てていく。

4. 施設管理

(1) ユニット強化のための改修

- ① 1 階幼児ユニットでは、安全面に関する見直しと整備を行うとともに、6名の幼児専用フロアとして再編成する。一時保護を適切に受け入れられるよう常設の枠を設定する。2階男子フロアを再編し、幼児の受け入れができる態勢整備を図る。高校生ユニットにおいては、完全自主調理へ移行し、自立へ向けたプログラムを強化していく。3階女子フロアは8名のユニットでの自主調理の体制を整えてきた。この体制をより推し進め、幼児ユニットと共同した自主調理体制を進めていくための整備を合わせて行っていく。
- ② 「ひなた」でのひとり暮らし体験を今年度においても通年実施するためより有効的・実効的な計画の作成に努め、起床・登校から調理・金銭管理を含めた高校生の自立支援に向けた支援の強化に努める。

(2) 事業管理

- ① 安定的な児童数の確保及び一時保護の積極的な受け入れをすすめる。
- ② 医療支援及び心理支援の充実化
- ③ ヒヤリハット委員会活動を通じた危機管理対応
- ④ 公用車安全運行に関わる取り組みの強化
- ⑤ ナビシステムによる情報の共有化とより効果的な活用
- ⑥ 高校生会議・中学生会議などの子供が意見を言うことのできる機会を確保し、子ども会活動の充実を図る。
- ⑦ 各フロア、各ホームでの予算管理を取りおこなうシステム作り。
- ⑧ 1階・2階フロアの再編成を行い、子どもの生活の安定を図る。

(3) 労務管理

職員の適正配置を推し進めるとともに、勤務シフトの整備に努めていく。

本体施設と小規模ホームとの連携体制の整備と強化を図っていく。

相互交流を強化するとともに、ナビシステムの有効活用による情報の共有化に努める。

職員への階層的な支援の強化に努めるとともに、定期的な面談の手法を使い、職員が孤立しないで業務の遂行に努めることができるシステムを構築していく。

5. 地域の福祉資源として

地域の子育て支援の役割としての、柏原市・八尾市のショートステイ事業の積極的な展開を図っていく。利用者の送迎など、ニーズに基づく利用の形態を明確化し、いつでも・だれでもが利用できる体制を整えていく。

自治会活動に積極的に参加し、地域ニーズを把握していくとともに、子育てに関わる期待値にこたえられるよう取り組む。

子育てに関する専門性に基づいたノウハウを地域に向けて、これまで以上に提供し、子ども子育て支援を地域と協働で進めていく体制を整えていく。